

# すももの郷通信Ⅱ

落合小  
学校通信  
No. 11  
2023.9.12  
発行 宮崎

## まだまだ暑さが続きそう 熱中症対策を怠らず行きましょう。

2学期のはじめは、各学年で係活動を決め直したり、新しい学級役員を決めたり、席替えをしたりと学級組織を整備します。気持ちも新たに、各学級でスタートを切りました。

さて、気象庁の長期予報によると、「暖かい空気に覆われやすいため、向こう3か月の気温は高いでしょう。」とあります。9月も気温は平年並みか高い予想で、秋の訪れが遅くなるかもしれません。一時的に涼しくなっても残暑は厳しいようです。これから、運動会に向けての特別日課も始まります。グラウンドや体育館での活動時には、暑さ指数(WBGT)等に気を付けながら取り組んでまいります。水筒、タオル、帽子、必要に応じて着替えなど熱中症対策にご協力をお願いいたします。

また、ここにきて新型コロナウイルス感染症の第九波の流行も心配されます。5類感染症への移行後も「ご家庭との連携による児童の健康状態の把握」「適切な換気」「手洗い等の手指衛生や咳エチケットの指導」等の感染症対策は引き続き講じてまいります。ご理解とご協力のほどよろしくをお願いいたします。



学校いたるところで、マリーゴールドが今を盛りに満開です。

## 「災害は忘れたころにやって来る」ではなく 「災害はもうすぐ来る」の意識で

関東大震災から、ちょうど100年目の今年、東日本大震災からも、すでに12年半が経ちました。あの恐ろしい記憶が薄らぐ中、今は、豪雨、猛暑・酷暑といった異常気象の話題にも多くの注目が集まります。

地震も豪雨も天災という括りの中で、今まさに大きな災害がいつ来てもおかしくない状態だという意識を持つことが必要です。特に山梨県は、「糸静線」系の活断層が広がる地域にあり、東海地震や南海トラフ地震も含めて一層の警戒が必要だと言われています。学校では9月1日(金)に地震を想定した避難訓練を行いました。今回は、休み時間に地震が起きたという想定の下に、子どもたちが教師と一緒に活動していない場面での避難について経験させました。

家にいるときにも災害(地震や火災等)に遭った場合、どのように行動したらよいか、避難の方法、避難場所などを確認しておくといいですね。「備えあれば憂いなし」、普段から訓練と侮ることなく準備しておきたいものです。



校庭で遊んでいた子どもたちは、校庭の真ん中に集まって、身の安全を確保していました。



休み時間を過ごしていた、それぞれの場所からの避難となりました。



全員無事に避難完了し、その後、課題を振り返りました。

## 「時間の使い方」

東京都にある聖路加国際病院に日野原重明先生という方がいらっしゃいました。2017年に105歳でお亡くなりになりましたが、100歳を超える現役のお医者さんとしてご活躍されました。その日野原先生が生前「命」ということについて、ご自分のお考えを様々な場面でお話しされています。

「命」という言葉はよく耳にしますが、「命って、目に見えますか?」「命って何ですか?」そう聞かれると、簡単なようでなかなか説明は難しいものです。中には、心臓に手を当てて「ここにあります」と答える子もいます。日野原先生はおっしゃいます。「心臓は確かに大切な臓器だけれども、これは頭や手足に血液を送るポンプであり、命ではない。命とは感じるもので目には見えないんだ。…本当に大切なものは目には見えないんだよ。」

そして、「命」とは、「君たちが持っている時間である。」とおっしゃっています。およそ、日本人の寿命は80歳くらいといわれていますが、私自身も80歳まで生きられるとしたら、あと何時間あるのでしょうか。さらに続けて、日野原先生は「時間を大切に使うことを学んでほしい。」といえます。

時間の流れは、一人一人に平等です。朝起きて、ご飯を食べて、歯磨きをして、トイレに行って、着替えて家を出て、みんな自分のために時間を使います。しかし、時間の使い方は、自分のためだけとは限りません。。学校でも、掃除をする、給食当番をする、委員会活動をする、家でもお手伝いをする、草花に水をあげる。これらのことは、自分以外の



人や物のために時間を使うことになります。自分以外の人や物のために時間を使うことは、いつも簡単にできるとは限りません。自分以外の人や物のために時間を使うためには、そこにその人なりの想いがあるはず。だから、自分以外の人や物のために時間を使うことは、人として生きていく上で肝となるのではないのでしょうか。

日野原先生は、「どうか一度しかない自分の時間、命をどのように使うかしっかり考えて生きてほしい。」とおっしゃっています。

## 児童会なかよしタイム 9月4日(月)

児童会で【なかよしタイム】を企画しました。今回は、全校児童が全員で「鬼ごっこ」を行いました。1年生から6年生までみんなが校庭を所狭しと走り回りました。

終わりの会での「コロナになって、全校で遊ぶことができなかつたけれど、今日は、全校みんなまで遊べて楽しかったです。」と述べた子の感想がとても印象的でした。



2学期の始まりにふさわしい言葉を全校集会で子どもたちに話しました。

相田みつをさんの『**夢はでっかく、根はふかく**』という言葉です。

大きく飛躍するには、大きな夢を持ち、根をしっかりと張って力強く成長していくことが大切です。

この詩には、「自分の根っこの深さにこだわりを持ち、自分らしさを大切に歩いていこう。」

「みんなの可能性は無限です。だから、見えない根の部分を自分で育てていこう。」  
という意味・願いが込められているようです。

子どもたちには、より良い自分を創って、でっかい夢をもってもらいたいと思います。

